

2023年9月11日

東京都知事 小池 百合子様
東京都環境影響評価審議会会長 柳 憲一郎様

明治神宮外苑再開発事業の施行認可の撤回及び環境影響評価の継続審議に 関する再要請書

明治神宮外苑の再開発の再考を願う建築・造園・都市計画の専門家有志

石川幹子（東京大学名誉教授）

◎糸長浩司（元日本大学教授）

岩見良太郎（埼玉大学名誉教授）

大方潤一郎（東京大学名誉教授）

原科幸彦（千葉商科大学学長）

藤本昌也（日本建築士会連合会名誉会長）

若山徹（新建築家技術者集団会員）

（◎有志代表）

私たち専門家有志は、本年3月8日に明治神宮外苑再開発事業に関して、「施行認可の撤回及び環境影響評価の継続審議」を求める要請書を都知事、都議会議長及び環境影響評価審議会会長に提出しました。この要請については、専門家420名（建築関係者190名、都市計画関係者81名、造園関係者69名、環境・経済関係者80名）の賛同を得ています（別紙）。明治神宮外苑再開発については、再開発計画見直しや樹木伐採の中止を求める約22万名、神宮球場存続約3.8万名、秩父宮ラグビー場の現在地での継承を求める約2万名の署名が行われ、また「坂本龍一と神宮外苑を心配する」、「国立競技場を未来にわたす会」では、音楽家、文化人、著名人等多様な分野の方々が再開発の見直しを求めています。また、明治神宮外苑周辺の住民からは子供たちの未来や安全、安心なまちづくりを求める取組が行われています。

環境影響評価については、国際影響評価学会（IAIA）日本支部から都知事に対し、公開の議論を行うこと、評価書の重要な疑義が解明されるまで、事業者に対し工事の中止を命じることを求める勧告が出されています。9月7日には国際記念物遺跡会議（ICOMOS）からヘリテージ・アラートが発せられました。しかし、東京都はこのような専門家、都民の意見を聞くことなく、明治神宮外苑再開発を遮二無二に推し進める事業者に手を貸すばかりです。そのため、工事の差し止めや樹木伐採の中止、工事によるCO2排出の被害を受けない権利を求める訴訟にまで至っています。

明治神宮外苑は、長い歴史的経緯の上に、現在の東京の核となる自然的、文化的、景観的な価値ある環境であり、また都民、国民の社会的共通資本であり、環境、空間の改変に関しては、多くの都民、市民の賛同なくして実現すべきではありません。

私たち専門家有志は、9つの視点から、本再開発事業の見直しを求めてきました（別紙）。都知事におかれましては、あらためて私たち専門家や多くの都民、団体の意見に耳を傾け、本再開発事業の施行認可を撤回し、本事業を見直すことを再要請いたします。環境影響評価審議会会長におかれましては、専門家を交えての再審議を実施していただくことを要請いたします。以上